

肺炎球菌ワクチンの定期接種 Q&A

Q1.肺炎球菌感染症とはどんな病気ですか？

A1. 肺炎球菌感染症とは、肺炎球菌という細菌によって引き起こされる病気です。この菌は、主に気道の分泌物に含まれ、唾液などを通じて飛沫感染します。日本人の約 3～5%の高齢者では鼻や喉の奥に菌が常在しているとされます。これらの菌が何らかのきっかけで進展することで、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を起こすことがあります。日本人の死因の3番目が肺炎で、高齢者を中心に肺炎で亡くなる人は年間 12 万人に達します。肺炎になる細菌には様々な種類がありますが、高齢者の肺炎の原因で最も多く、重症化しやすいものが肺炎球菌です。

Q2.ワクチンの予防効果はどれくらい続きますか？

A2.個人差はありますが、健康成人であれば通常 5 年程度は有効と考えられています。

Q3.副反応はありますか？

A3.接種部位が赤くなる、ずきずきと痛む、腫れる、軽い発熱、筋肉痛、関節痛などの症状が出る場合がありますが、多くは 1～3 日で消失します。また、重大な副反応として、アナフィラキシー様反応、血小板減少、知覚異常、ギランバレー症候群等の急性神経根障害などが生じる可能性があります。過去にこのワクチンを受けたことのある人が短い期間(5 年以内)に再接種した場合には、強い副反応が出ると言われています。予診票が送られてきても「接種はしないでください」。

Q4.対象年齢はいくつですか？

A4.平成 30 年度の対象者は、以下の方です。

対象者	生年月日
65歳となる方	昭和28年4月2日生～昭和29年4月1日生
70歳となる方	昭和23年4月2日生～昭和24年4月1日生
75歳となる方	昭和18年4月2日生～昭和19年4月1日生
80歳となる方	昭和13年4月2日生～昭和14年4月1日生
85歳となる方	昭和8年4月2日生～昭和9年4月1日生
90歳となる方	昭和3年4月2日生～昭和4年4月1日生
95歳となる方	大正12年4月2日生～大正13年4月1日生
100歳となる方	大正7年4月2日生～大正8年4月1日生

※ただし、予防接種を受ける義務はありませんので、ご本人が接種を希望する場合のみ接種してください。

接種を受ける本人に麻痺などがあり同意書に署名できない場合、認知症状があつて正確な意思の確認が難しい場合などは、家族やかかりつけ医によって慎重に本人の接種意思確認をして接種適応を決定します。(最終的に確認できない場合、予防接種法に基づく接種はできません。)

裏面もご覧ください⇒

注意事項

予防接種を受けることが出来ない人

- ・ 過去 5 年以内にこのワクチン(ポリサッカライド)の接種をした方。
- ・ 明らかに発熱している方(通常は 37.5 度を超える場合)。
- ・ 重い急性疾患にかかっている方。
- ・ 予防接種液の成分によってアナフィラキシーショック(通常接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や全身性の“じんましん”などを伴う重いアレルギー反応のこと)を起こしたことがある方。
- ・ その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうが良いと言われた方。

予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人

- ・ 過去にこのワクチンを接種したことがある方。
- ・ 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方。
- ・ 過去に予防接種で接種後 2 日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状の見られた方。
- ・ 過去に“けいれん”（ひきつけ）を起こしたことがある方。
- ・ 過去に免疫不全の診断がなされている方、もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方。

接種を受けた後の注意事項

- ・ 接種当日は、激しい運動や多量の飲酒は避けてください。接種当日の入浴は問題ありませんが、接種部位を擦る(こする)ことは止めましょう。
- ・ 接種後は体調に注意し、高熱や体調の変化、その他の異常反応がある場合は医師に相談してください。

副反応が起こった場合

- ・ 予防接種後、まれに副反応が起こることがあります。予防接種と同時に、ほかの病気がたまたま重くなって現れることもあります。予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、体調変化が現れた場合は、速やかに医師(医療機関)の診察を受けてください。